

# 赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

Jan 2010

Vol.836 http://www.jrc.or.jp



## 新春によせて

# 赤十字運動飛躍の年に

日本赤十字社社長  
国際赤十字・赤新月社連盟会長  
**近衛 忠輝**



が、連盟会長として一番の課題だと感じています。

### 各国赤十字社の要請に応えられ連盟へ

昨年11月、国際赤十字・赤新月社連盟(連盟)の第15代会長に選出されました。アジア地域からの会長選出は90年に及ぶ連盟の歴史のなかで初めてのことであり、気持ちを引き締まる思いです。

会長選挙にあたり、多くの赤十字社のリーダーにお会いし、その意見に耳を傾けました。

そのなかで強く感じたのは、それぞれの社を取り巻く環境は実にさまざま、活動もバラエティーに富んでいるということでした。連盟に対する期待も当然異なります。各社からの多様な期待にどう応えていくか

### 災害救護にとどまらない活動を

日常的な活動を外部の支援に頼らずに展開していく、自立できる「基礎力づくり」が各国の赤十字社・赤新月社に課せられた最優先の課題であるといえるでしょう。それができれば、いざ大災害が起きたときに大きな力を発揮することができるし、外部からの支援を効果的に生かすこともできるでしょう。

連盟というと「大災害が起きたときに救援活動を行う大きな人道的ネットワーク」との認識が一般的で、開発協力を行っている組織というイメージは、残念ながら強くありません。

### 気候変動への備えを

「2020年戦略」をスタートさせるにあたっての前提は「我々自身が何者であるか」を知ることにあります。

昨年開かれた連盟の総会では、これからの10年間の道筋を示す「2020年戦略」が採択されました。この戦略をつくるにあたっては外部の有識者などに現状を分析してもらいましたが、そこで指摘された最大の問題は、気候変動が人道分野に与える影響についてでした。

気候変動は、それによって自然災害が増加しているだけでなく、間接的には貧困の増大や健康問題、社会不安を引き起こしています。赤十字は気候変動そのものに対して直接的に力を発揮できるわけでは

ありませんが、その影響に対する備えをいち早く始めるべきでしょう。「2020年戦略」では連盟が重点的に取り組む3つの課題として、①災害救護や復興支援など災害への対応、②健康で安全な生活をめざす事業、③社会的差別をなくし、非暴力、平和の文化を醸成する——ことを掲げています。

### まず、自分自身を知ろう

世界には186の国と地域に赤十字社・赤新月社がありますが、お互いが何をやっているのか、また、どんな潜在力を持っているのかを知らなければ、いざというときに助け合うこともできません。そのためにも、自分たちのことをよく知ることが必要です。

日本赤十字社も、これまで蓄積してきた経験や力を再確認し、国際的な協力関係を構築するなかで、これまで培った力をどう生かしていくかが問われています。

(2面へつづく)

## 小さな気持ちが大きな支援に ベッキーさんが募金よびかけ

「海外たすけあい」オープニングイベント



園児もおこずかいを募金 (12月1日NHK放送センターで行われたオープニングセレモニー)



生放送中の永井伸一アナウンサー、ベッキーさん、古出さん(日赤国際部)のスタートに先立ち、義援金はどう役立てられているのかを広く国民にアピールするのが目的です。フィリピンやケニアで日本赤十字社が取り組む保健衛生支援の様子がビデオで放映されました。

「NHK歳末たすけあい海外たすけあい」のイメージキャラクターをつとめるベッキーさんを招いた公開イベント「あなたのやさしさを2009」が11月29日、東京都港区の六本木ヒルズ内で開かれ、NHK総合テレビで全国に生中継されました。

「NHK歳末たすけあい海外たすけあい」のイメージキャラクターをつとめるベッキーさんを招いた公開イベント「あなたのやさしさを2009」が11月29日、東京都港区の六本木ヒルズ内で開かれ、NHK総合テレビで全国に生中継されました。

1面 近衛社長新春メッセージ(つづき)

### 赤十字思想を 実践する年に

昨年は、赤十字思想誕生150周年、連明誕生90周年、ジュネーブ条約締結60周年という節目の年でした。

そのため、赤十字運動の原点に立ち返り、自分たちは何のために存在するのかについて、あらためて見直す年となりました。「2020年戦略」がスタートした今年は、昨年の思いを実行に移す年だといえるでしょう。

ただし、赤十字思想が誕生した150年前と今とは、世の中はだいぶと違っています。現在、私たちが直面している人道問題は、グローバル化するなかで非常に複雑な問題を抱えています。こうしたなかで、赤十字だけで解決できる問題は多く

ありません。各国の政府や国際機関、NGOなどと密接な協力関係を築くことが必要であり、そのなかで赤十字として独自性を発揮していくことが求められます。

### 連帯の精神に 信頼を

国内に目を転じれば、少子高齢化は進み、景気の先行きは見えず、将来への不安もあるという状況のなかで、他人のことにまでなかなか関心が向かないという傾向が見られます。そうしたなかで赤十字に関心を持ってもらうことはやさしいことではありません。しかし私たちは、若者や市民に対し、社会に関心を持ってもらう機会を提供できる組織であると自負しています。

赤十字は「ボランティアの組織」

といわれ、世界的に見れば8000万人とも1億人ともいわれるボランティアに支えられています。特に若い人たちにぜひ参加していただきたいと思っています。草の根のボランティアたちの自由な発想を生かす機会と場を提供することが、赤十字の職員に課せられた一つの大きな役割ではないでしょうか。

世界では今の時も、大勢のボランティアが働いています。彼らと気持ちを共有できなければ赤十字運動は支持を得られないし、その活動も長くは続かないでしょう。この点について私は、連盟の会長選にあたり「Spirit of Togetherness (連帯の精神)」という言葉で訴えました。全職員がこの精神を持ち、「もっとうろくろく！」として赤十字運動をさらに広げる1年にしたいと考えています。

## 人と人がつながって笑顔 そして「ありがとう」

### ケニア事業の写真展「dansa(ダンサ)」



菅原一剛さんと藤原紀香さん

写真家の菅原一剛さんが日本赤十字社のケニア事業地を撮影した写真展「dansa」として、ケニアの子どもたちを救う地域保健強化事業「I HOP」を平成19年11月からスタート。菅原さんは、このI HOP事業地を昨年3月に取材し、現地の人々の姿をラ

イルムに収めました。12月1日に開かれた写真展のオープニングセレモニーで菅原さんは、「赤十字の現地での活動に年甲斐もなく感動しました」と取材を振り返り、「人と人との交わりで生まれるのは笑顔。この写真を見た人が『私たちにできることはあるかな』って思ってくれたらうれしい」と述べました。セレモニーには赤十字広報大使として菅原さんとともにケニアを訪問した藤原紀香さんも出席。「写真を見て、ケニアにまた行きたくなりました。支援の現場には、文化や環境の違いを乗り越え、何年も駐在している日赤の職員がいます。その方たちの活動を私も応援していきたい」と今後に向けた抱負を語りました。

## 五・七・五で 広げよう 献血の輪！

### いのちと献血俳句コンテスト



入選作品を選ぶ審査風景

#### ◆入選作品一覧◆

**最優秀賞**  
(小学校低学年の部)  
あさがおの つるがどんとんてをつなぐ  
(藤田 優里さん)

(小学校高学年の部)  
冬の朝 おきたらいたよ 赤ちゃん  
(中田 和希さん)

(中学生の部)  
甲子園 汗が涙に かわる夏  
(尾上 未夏さん)

(高校生の部)  
ポケットの 献血カードや 更衣  
(本田 しおんさん)

(一般の部)  
昼寝児の かくも小さな 大の字よ  
(菅 伸明さん)

**優秀賞**  
(小学生低学年の部)  
なつ休み けんけつのこと しらべたよ  
(依田 梓さん)

(小学生高学年の部)  
祖母と居る 日向ぼつこの 猫のように  
(加藤 初音さん)

(中学生の部)  
母編んだ セーター少し 大きな  
(山田 美穂さん)

(高校生の部)  
マフラーを さしだした後 はしり去る  
(遠藤 理菜さん)

(一般の部)  
雪のほひ させて青年 献血す  
(小谷 知里さん)

献血やいのちの大切さを理解してもらおうと日本赤十字社が毎年、主催している第4回「いのちと献血俳句コンテスト」の表彰式が12月6日、東京都港区の日赤本社で開かれました。審査委員長に俳人の篠まどかさん、ゲスト審査員にサッカー1元日本代表で、現ビチサツカー日本代表監督のラモス瑠偉さんを迎え、約30万句の応募作から15作品に最優秀賞などが贈られました。

栄えある厚生労働大臣賞には、埼玉県在住の柳下清子さん(76)の作品「百回の 献血の空 澄みわたり」が選ばれました。柳下さんは「年齢的にも最後になると思っ、て献血した時のことを詠みましました。献血ルームの職員の方にも『おめでとう』と書いて100回です」と言ってもらったことをよく覚えてい「す」と喜びの声を。

「制服を 祖父に見せよう 募参り」の句で文部科学大臣賞を受賞した高校1年生の

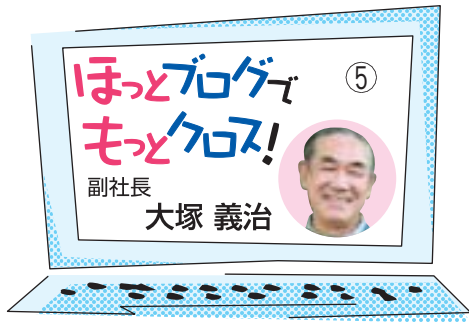
(関連記事7面)



ゲスト審査員ラモスさんからはサッカーボールのプレゼントも



第4回いのちと献血俳句コンテスト表彰式



▼プロフィール  
昭和22年生まれ、栃木県出身。元厚生労働事務次官。平成17年から日本赤十字社副社長。趣味は読書で、自身の読書遍歴をまとめた「遊歩入夢 文庫の香り」(弓立社)の著書がある。

◆沖縄から、ユイマール

新年おめでとうございます。本年も、よろしくお願いたします。

昨年は、日本赤十字社の近衛忠輝社長が、アジア初の国際赤十字・赤新月社連盟会長に就任するというビッグ・ニュースがありました。国際赤十字にとっても、日赤にとっても、新たな歴史の1ページを加える出来事だと思います。

新会長の活躍をお祈りすると同時に、我々日赤スタッフも、連盟会長を戴く社にふさわしい活動が展開できるよう努力したいと思っています。

さて、各地から寒さの便りが届く季節なので、今回は暖かい地域の話をお話します。

昨年秋、那覇市で開かれた九州8県赤十字大会に出席したときのことです。地元から参加されたある方が、「ユイマール」という沖縄の言葉を教えてくださいました。その語源は「結い」で、「助け合い」という意味なのだそう。

長い歴史の中で、多くの辛く厳しい経験を重ねてきた沖

縄。そうした日々から生まれた言葉なのではないでしょうか。

そして、「赤十字の心にも通じると思うのですが、どうですか」とその方はおっしゃるのです。

私もそのとおりでと思い、素敵な言葉を教えていただいたことに感謝しました。

そういえば、献血イメージ・ソング“いのちのリズム”を歌っている夏川りみさんも、沖縄の出身ですね。

でも、この曲、最初から夏川さんが歌っていたわけではありません。たまたまこの曲を耳にした夏川さんが、わざわざ、自分が歌いたいと申し出てくださったのだそうです。それを聞いて私は、ますますこの歌が好きになりました。

献血は、多くの方々の無償の善意が、百万人を超える人々の命を救っています。これこそ「ユイマール」によって支えられている事業といえるのではないのでしょうか。

今年も、この項へのご意見などを歓迎します。

メール・アドレスは、<otsukablog@jrc.or.jp>。

宝塚歌劇 アンリー・デュナンの生涯を舞台化

赤十字思想誕生150周年記念



赤十字思想が提唱されて150周年を記念して、赤十字の生みの親アンリー・デュナンの生涯を描いたミュージカル作品「ソルフェリーノの夜明け」が2月から宝塚歌劇団雪組により上演されます。

ルサイユのぼら「風と共に去りぬ」などの大ヒット作品を手がけてきた同歌劇団特別顧問の植田紳爾さん。凄惨な戦場のなかでデュナンの敵味方の区別なく人を救う行動に立ち上がる姿を感動的に描き、命の尊厳を訴えた作品です。

デュナンを演じるのは雪組トップスターの水夏希さん。相手役となる看護師のアンリエットを雪組トップ娘役の愛原実花さんが務めます。公演は2本立てで、第2部はショー・グランデ「Carnevale 睡夢」が上演されます。

●公演期間と会場

- ・2月5日(金)～3月8日(月) 宝塚大劇場(兵庫県宝塚市)
- ・3月26日(金)～4月25日(日) 東京宝塚劇場(東京・日比谷)

●一般前売

- ・宝塚大劇場 1月9日(土)～
- ・東京宝塚劇場 2月21日(日)～

詳細はホームページ <http://kageki.hankyu.co.jp/>で

●お申込・お問い合わせ

- 宝塚大劇場 電話0570-00-5100
- 東京宝塚劇場 電話03-5251-2001

「ソルフェリーノの夜明け」 アンリー・デュナンの生涯 ストーリー紹介

舞台は1859年、イタリア・ロンバルディア地方のソルフェリーノ。イタリア独立

をめくり、イタリア、フランス連合軍とオーストリア軍との間で激しい戦闘が繰り返されてきました。

野戦病院となった教会には戦死者や負傷者が運びこまれ、医師エクトールや看護師アンリエットが懸命な看病をしています。しかし、敵であるオーストリア兵たちは広場に放置され、死を待つばかりでした。

その凄惨なありさまに異を唱えたのがアンリー・デュナ。デュナンやエクトールと対立するアンリエットたち。デュナンは「人間はいつになっても、争いの愚かさがかかるのだ」と悩みます。

そんなある夜、捕虜のオーストリア少年兵が、故郷を思いながら吹いたハーモニカの音色が野戦病院に響きます。

インタビュー

若い世代に伝えたい 命の尊厳と助け合いの心

宝塚歌劇団特別顧問 植田紳爾さん(作・演出)

作品を構想するためにデュナンのさまざまな資料を読むなかで感じたのは、「これは逃げるわけにはいかない」という思いでした。

宝塚歌劇は、愛やロマン溢れる舞台でファンの方々の支持をいただいています。ですから、デュナンを描くにあたって当初は、「前半はフィクションで味付けを」と考えていました。しかし、今回はそれをやめました。彼が戦場を見たこと、感じたことを正面から描こうと腹をくくり、宝塚として新しい挑戦をしようと思ったのです。

私は、特に若い世代の方にこの作品を観てほしい。そして、世界ではまだ戦争が続く大勢の人が苦しんでいること、この苦しみを世界からなくすため、何をしなければならぬかを考えるきっかけになればと願っています。

神戸の実家を失い、疎開先の福井でも空襲にあいました。焼夷弾で焼かれた死体の臭い、福井城のお堀に浮かんだたくさん死体の死体、それをスコップで片づけた体験。そんな経験があるから、デュナンが見た戦場の様子がイメージできるんですね。



ソルフェリーノの丘での体験から彼がどのように赤十字思想を生み出したのか。宝塚は裸になってデュナンに近づき、これまでにない舞台を作り上げようとしています。

デュナンやエクトールと対立するアンリエットたち。デュナンは「人間はいつになっても、争いの愚かさがかかるのだ」と悩みます。

そんなある夜、捕虜のオーストリア少年兵が、故郷を思いながら吹いたハーモニカの音色が野戦病院に響きます。

「こんどはぼくが、力になる!」 「はたちの献血キャンペーン」スタート

新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心に、献血への理解と参加を国民に広げていくキャンペーンで、特に成分献血と400ml献血への協力を呼びかけています。

今年の広報キャラクターは、プロゴルファーの石川遼選手。

「数えられない程の人に支えられている。こんどはぼくが、力になる」と熱いメッセージで元気に献血をアピールしてもらいます。

「はたちの献血キャンペーン」が1月1日からスタート。2月28日まで取り組まれます。



常任理事会開催報告  
平成21年12月18日、本社において平成21年度第8回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項  
予算の補正について  
(益田赤十字病院の電子カルテシステムの新規整備にかかわる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正)  
資金の借入について  
(益田赤十字病院の電子カル

この御下賜金は、災害などによる被災者救済事業のための資金として有意義に使用させていただきます。

テシシステムの新規整備、及び福井赤十字病院の同システムの新規整備にかかる資金の借入)  
審議の結果、原案のとおり議決されました。

また、国際赤十字について、国際活動に対する日本赤十字社の広報について、平成21年度NJK海外たすけあい募集実績の中間報告について、予算の補正にかかる11月の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

# 人と人をつなぎ 支援に学んだ5年間

## 日赤の復興支援事業が終了へ

### 2004年12月26日—スマトラ島沖地震・津波災害

# 「与えるだけの支援」から「力を引き出す支援」へ

死者・行方不明者約2万人という大きな被害をもたらしたスマトラ島沖地震・津波災害（2004年12月26日）。日本赤十字社は被災者の暮らしを再建し、現地の防災対策をの復興支援事業を5年にわたり取り組んできました。規模、期間ともに史上最大となったこの支援は、日赤にとっても新たな挑戦でした。そこから学べたものは何か？ 日本赤十字社国際部の白土樹保援助長に話を聞きました。

#### 誰も支援をコントロールできなかった

復興支援は2005年4月から本格的に始まり、最初から事業の全体像や具体的な目標が描けていたわけではありませんでした。日赤に寄せられた義援金は過去最多の88億6,000万円に達しましたが、最大48メートルもの津波の襲撃を受けた現地の被害はあまりに大きく、膨大な支援ニーズがあるなかで、簡単にその使い道を決められなかったのです。

も一つの理由は世界中から支援が集中したこと。各国赤十字社・赤新月社ももちろんさまざまなNGO（非政府組織）が復興支援に乗り出した結果、一種の「支援競争」が起きていました。どの団体が何を支援するのか調整がつかず、先に着手した者勝ちという状況。これだけの規模の支援を誰がコントロールするのかが、その仕組みが整っていきませんでした。

#### 初めての大规模住宅建設支援

こうして再建された被災者の住宅は200戸余り、その実現には紆余曲折がありました。予算にも限りがあるなか、基礎を設けて住宅再建の

「村の人たちは、以前に比べて保健衛生や健康についてずいぶん進歩している。」「支援は高まっている。」「赤十字は、赤十字の原則にある『公平』です。差別なくすべての人に接し、最も必要な人を支援してあげました。そして、支援とは人と人をつなぐものだと感じました。日本からの支援への感謝の思い、友情の気持ちは消えることはないでしょう。」



インドネシア・アチェバラ県の被災地を近衛社長と訪問した白土保長（左、2005年5月）

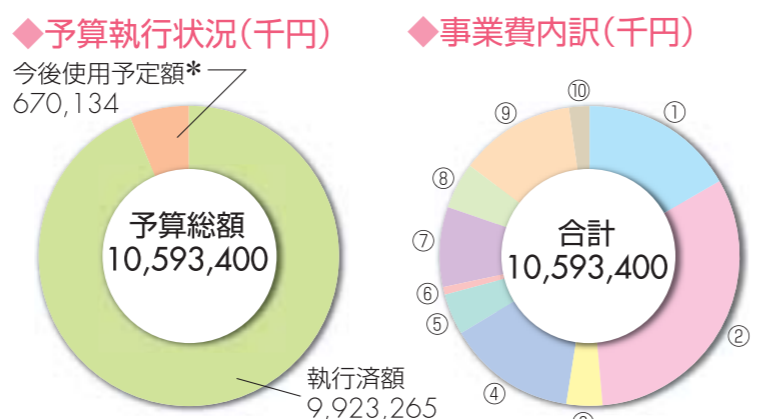
#### 被災地の活力の新たな源泉に

日本赤十字社は、被災地の人々の命・健康を守り、防災を進め、医療支援や救援物資の提供にとまらな



インドネシア・バンドアチエ市で生計支援・防災事業に参加する住民と日赤駐在員、保田文子さん（2009年10月）

#### 救援・復興支援の事業収支報告(2004~2009年)



支援分野 (予算額)	主な支援内容
①緊急救援活動 (1,771,482千円)	医師・看護師等のべ105人を派遣して1万人以上に対する医療や食料、テント、蚊帳の配付など
②すまいと暮らしの再建 (3,405,466千円)	住宅2202戸の再建や衛生的な水の確保、生計支援、集会所の設置など
③将来の災害への備え (385,952千円)	マンガロープ123万本の植林や防災マップの作成、救護倉庫の設置など
④いのちと健康を守る (1,498,080千円)	病院・診療所83カ所の再建、災害看護や水上安全法の導入、約2万5000人の視力回復や保健衛生知識の普及など
⑤被災児童への教育支援 (470,284千円)	文具セット30万6000組の提供のほか、日本の子どもたちとのカードの交流など
⑥被災地の能力強化 (78,432千円)	ボランティアの活動拠点となる被災地赤十字支部4カ所の整備など
⑦他の被災国支援 (915,469千円)	インドネシア・スリランカ以外の被災各国に対する国際赤十字を通じた医療や救援物資の配付など
⑧アジア・太平洋救援体制整備 (522,675千円)	アジア・太平洋地域の大規模災害への備えとして、医療器材の整備や救援物資2200世帯分の備蓄など
⑨職員の派遣・調査 (1,314,003千円)	職員のべ58人を被災地に派遣して復興支援事業の確実な実施・管理や調査など
⑩事業運営に要する事務的経費 (231,557千円)	皆さまからお預かりした海外救援金の確実な管理や事業運営、事業評価や広報活動など



集会所（ボスコ）を訪れボランティアと話す長谷川さん（2009年10月）

## 人が育ち、地域が変わった

### 「被災地の現実を大切に」

インドネシア元駐在員 長谷川 文さん（日赤医療センター）

「村を良くするのは自分たち、とボランティアに立候補する方がたくさんいる。そのうち彼らが出会えてうれしかったですね。」

昨年12月まで1年3カ月にわたってインドネシア・アチェ州ナカンラや県に派遣されたCBFAに携わってきた助産師の長谷川文さん（日赤医療センター）はその活動を振り返ります。いまボランティアの組織が自立しようとしています。これまでの支援がやがて実を結ぼうとしています。

CBFAは、住民に保健衛生知識を普及する事業。これまでに同県の10の村に約1500人のボランティアを育ててきました。ボランティアにはのびのびとした知識や技術を地域にける役割が期待されています。

30、40代の主婦や若い青年層、農家の方など参加者が多かったです。2008年からは、ボランティアによる村での保健衛生の研修会がスタートしました。少しずつ成果

が振返ります。もちろん、CBFAの全部が順調だったわけではありません。言葉の問題や文化の違いも横たわっていました。アチェの人々は誇りが高く、「支援は受け取る」という態度では、「別に支援なんかいらない」となりかねません。と長谷川さんは事業の難さを語ります。

こうした経験を通じて長谷川さんが痛感したのは、地域の現実を無視した支援は根本から間違っていること。そして心がけなければ、地域の文化を大切に、人間関係を築いていくことができないアプローチだということです。

それがあればこそ、CBFAが住民のなかに根づき生活基盤を上げることに成功しつつあるのだと思います。

ホームページでビデオ配信中

復興の軌跡を記録した「明日を信じて」

番組中の松尾看護師（左）

1カ月後に山間部の村に入り緊急救援活動

被災から復興までの5年間の軌跡を記録したテレビ番組「明日を信じて」は11月にBS朝日で放映されました。好評を得たこの番組が3月まで日本赤十字社ホームページの特設サイトで配信中です。

広範囲にわたる被災地のなかには、山間部のへき地も少なくありませんでした。当初の支援は、被災者が自立して生活できるようにと、山間部での巡回診療を行うなどの対応を取ってきました。

番組は、地震から1カ月後に山間部の村に入り緊急救援活動

「こんな症状なんだけど、インターネットで調べて来てほしい」と求める姿も見られるようになりました。

しかし、日赤の支援終了後、はたして住民だけで事業は継続できるのでしょうか。

CBFAは保健衛生や救急法などの普及をはかるものですが、住民自らが活動できるものになることを目標にしてきたのです。その拠点となるボランティア集会所ボスコの建設や運営を通じて、ボランティアは自分たちが責任を持ち行動することも体験してきました。

「マシキさんは、日赤支援が与えるだけの支援にとどまらず、住民の力を引き出す取り組みだったことを強調します。」

日赤のローカルスタッフ契約が終わり、もとの大学の職場へ戻るマシキさん。この5年間の活動で感じた「赤十字は「支援とは」という語りがありました。

「他の支援団体と赤十字の違いは、赤十字の原則にある『公平』です。差別なくすべての人に接し、最も必要な人を支援してあげました。そして、支援とは人と人をつなぐものだと感じました。日本からの支援への感謝の思い、友情の気持ちは消えることはないでしょう。」

動に携わった松尾文美看護師（当時・和歌山医療センター）現在・本社看護部所属）が5年ぶりに現地の村を訪問。希望をもって頑張っている被災者の姿を伝えます。

また、復興支援事業として被災地の村で取り組まれた住宅建設や給水施設整備、保健衛生活動、防災整備などについても紹介。「これからは自分たちの力で村を支えていきたいと思います」というボランティアの言葉も聞かれます。

同サイトでは、この番組の他にも、普賢に復興への歩みを進めている被災地の様子やそこで暮らす人々の表情を写真やショートストーリーで紹介しています。

ホームページ <http://www.sumittra.jp/>

高まる赤十字ボランティアへの期待

保健衛生普及事業



集会所の建設を見守るマシキさん（右）

# 各地で災害時訓練

## 人を救うあついで 情熱で寒さを 吹き飛ばせ

九州8県

九州8県支部合同災害救助訓練は11月27日、宮崎市の宮崎県武道館で実施され、各県から125人が参加。図上シミュレーション訓練などを通じて、情報の共有化と災害救助体制を確認しました。

中国・四国地方9県支部合同救護訓練は、「広島市で震度6強の地震発生！」という想定の下、11月14、15日に広島市内で実施。各県支部の救護班が救護所を設置し、傷病者のトリアージ訓練などを行いました。

### 視覚障害者が非常食の炊き出し体験

山口

目の不自由な方に災害時の非常食づくりを体験してもらう炊き出し訓練が11月22日、山口県周南市の助地自治会館で行われ、市内の視覚障害者約20人とボランティア20人、地域住民の計60人が参加しました。



自衛隊のヘリコプターで患者を緊急輸送 (広島)

訓練を主催したのは、視覚障害者とのふれあい活動を続ける「山口ささゆり会」。会



視覚障害者も包丁を使い豚汁づくり

長の開村修三氏は山口県赤十字奉仕団の指導講師を務めています。

開村会長は「目の不自由な人にも出来ることは進んでやる姿勢を持ってもらおうと実施した。ボランティア側の活性化にもつながる」と話しています。

## 名誉副総裁招き 記念のついで

日本赤十字社名誉副総裁秋篠宮妃殿下をお迎えした福岡県日赤紺綬会創立50周年記念総会が11月18日、北九州市内で行われました。

総会では、赤十字事業に多大な貢献をされた方々に秋篠

# 全国各地で 海外たすけあい

## 赤十字フェアで 募金よびかけ

岐阜

岐阜県支部では計4日間にわたる「赤十字フェア」で募金を呼びかけました。

フェアは12月5、6日に大垣市で、19、20日に岐阜市で開催され、JRC加盟校の高校生メンバーや奉仕団員らが参加。健康ブースやAED講

習、献血などと併せて募金活動を実施しました。

### 県内68カ所で 声響かせて

和歌山

和歌山県は12月6日を中心に、県内の奉仕団のある地域68カ所で募金キャンペーンに取り組みました。

和歌山駅とショッピングモールの和歌山パームシティで

### 心も温まる 善意のお札

福井

福井県内では12月1日、地域奉仕団や青年奉仕団が各地で街頭に立ちました。

坂井市赤十字奉仕団の平木多津子委員長は、「募金をお願いすると、中にはお札を寄せてくれる人もいて心が温まります」と話していました。



若い力も大活躍

### 写真展と巨大 スライドで アピール

千葉

12月1日に社屋の壁面を利用した巨大スライドを上映したのは千葉支部。通勤客や住民に向け、赤十字運動の紹

赤十字の現場から

人間を救うのは、人間だ。

支持を訴えるために私が海外出張した回数は15回。そのうち14回は社長に帯同したものでした。男同士の旅

近衛社長が連盟会長選への出馬意志を固めてから、各国赤十字社・赤新月社に



ですからね。いろいろ本音で語り合いました。

ですから、連盟会長に当選した瞬間は、本当に嬉し

## 頭のスイッチはまだ切れません

### 1年間にわたり連盟会長選挙をサポート

近衛社長が立候補の意志を表明したのは、一昨年に南アフリカで開かれたパン・アフリカ地域会議の時でした。欧米各社からの打診を受け、日本にいた社長

が立候補を決意。国際部長がその意志をみなさんに伝えたのが最初です。

私はその場にいたのですが、欧米各社の幹部の「よ

る役割など赤十字の多様性を改めて認識できたのは、私にとって貴重な経験です。この多様性を近衛連盟会長の力で「人道の力」に変えていくことがこれからの最大の目標です。

実はこの1年間、スーツケースをしまう暇がありませんでした。同時に頭のスイッチも入れっぱなしで、常に頭と体がフル稼働している感覚でした。選挙は終わりましたが、今度は会長のサポートが始まります。当分スイッチは切れません。

### 福岡、大阪ともに800人以上が参加



宮妃殿下から金色有功章が授与され、「赤十字運動に参加する人々の輪が広がっていくことを祈ります」とのことばを賜りました。

大阪では、名誉副総裁高円宮妃殿下のご臨席のもと「平成21年度大阪日赤社員のごとく」が11月24日、大阪市内で開催されました。

### 青少年赤十字(JRC)加盟校の阪南市立東鳥取小学校の児童による体験発表などが行われました。

### 介や参加を訴えました。

11月30日から12月4日は、NHK千葉放送局内でスマートフォン地震・津波災害復興支援活動の写真展も開催。来場者に募金を呼びかけました。

### 工夫こらした 宣伝で25万円

香川

香川県支部は12月5日、JR高松駅など3カ所で街頭キャンペーンを実施。JRC加盟校生徒や奉仕団員など165人の呼びかけで、25万2315円の募金を集めました。



「ありがとうございます！」

### 子どもたちを 先頭に

宮崎

宮崎県支部では、12月1日から5日と7日に宮崎市内の2カ所で街頭募金を実施。JRC加盟校の江平保育園の園児など計102人が参加し、12万6898円の募金を集めました。

19日には県内のJRC加盟校の高校生約30人による街頭募金も実施されました。

### ハートいっぱい 寄付いっぱい

広島

「ハートいっぱいチャリティ会場」が12月4、5日、NHK広島放送局で開かれ、チャリティーバザーや広島カープ選手のチャリティー・オークションなどが行われました。

広場では、保育園児の歌や和太鼓演奏、ダンスなども披露。会場を盛り上げました。



巨大ハートが会場を包み込みました

### 中学生が 初参加

福島

福島県支部では、県内11の市町で街頭募金を実施。赤十

### 奉仕団と支部 職員が一丸で

長野

長野県支部は12月1日、JR長野駅前前で長野市赤十字奉仕団、長野大学青年赤十字奉仕団、支部職員が一丸で寄付を呼びかけました。1時間で4万6760円の義援金が寄



せられました。

県内各地の奉仕団も、それぞれの地域で街頭募金に取り組みました。

ご当地ヒーロー、  
ネイガー・マイ  
も登場

秋田



街頭募金には、赤十字サポーターのネイガー・マイさんも応援に。マイさんは、「海外の苦しんでいる人々を助けられる事業に協力できてうれしい」と話していました。

### 病院と市民が 語り合いの場 栃

地域唯一の公的病院として 二次医療を提供している芳賀 赤十字病院は11月21日、「第



地域の方と真剣に語り合う 院長

「1回芳賀日赤ふれあいデー」を開催しました。日赤の使命や事業、組織について地域住民により身近に感じてもらうのが目的です。

「院長と看護部長と語りませんか？」のコーナーでは、「いつでも電話をかけたら病院は診てくれますか？」などの質問も。岡田真樹院長からは「地域の医療システムは医師会との協力のもと一から三次救急に分かれております」と理解と協力を求める丁寧な説明がありました。

### 地域文化祭で 奉仕団活動PR 滋

滋賀県大津市瀬田中分団の



マネキンに毛布で作ったガウンを着せて披露

奉仕団は、11月2日と3日に開催された地区の文化祭に、「災害時の高齢者生活支援講習」の展示コーナーを設置。ホットタオルの作り方や足浴、風呂敷によるリュックサックなどを紹介しました。

多くの人がコーナーに足を止めて展示を見学。奉仕団分団長の首野智恵子さんは「団員確保のきっかけになるよう

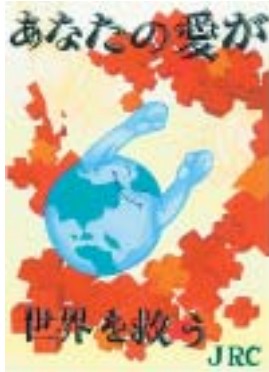
北海道支部では、14回目となる赤十字絵画コンクールを北海道内の小中学校の児童・生徒を対象に取り組み、1286点の作品が集まりました。入選作は48点。支部長賞には、札幌山の手高等学校2年、

う、今後も地域の方にアピールしていきたい」と話しました。

### 絵画コンテストで赤十字をアピール

絵画を通じて赤十字への理解を深めることを目的にしたコンテストが昨秋も各地で開催されました。

滋谷香澄さんの作品が選ばれました。宮城県支部と宮城県赤十字有功会が主催したのはポストカードコンクール。県内JRC加盟校及び各赤十字奉仕団を対象に募集し、115作品の応募がありました。最優秀賞には名取市立下増田小学校6年生の山田美琴さんの作品が選ばれました。



北海道 滋谷香澄さんの作品

### 心からの寄付に感謝

100万円相当の寄付を 14年連続で 雄飛会

法講習用機材などが贈られています。 あたためたい善意につつまれスキ 一場開き祭 長 野



ミス志賀高原も募金の先頭に

志賀高原観光協会はこれ longer 長野支部に寄贈。支部では県下赤十字病院での車椅子購入に役立てる予定です。

高校同窓会がバザー収益を寄付 佐賀

第23回佐賀東高等学校不知火同窓会から11月12日、同窓



森田徹実行委員長(左)

### クローズアップ ひとつ

昨年12月に開催された「いちと献血俳句コンテスト」の審査委員長を務めました。「30万もの句を審査するのは、かなりの重労働でした。でも、そんな中で素晴らしい句に出会うと、ハッと手が止まります。皆さんの句から元気をもらっています」

俳句を詠むことは命と対峙すること、熱っぽく語ります。「自然とはまさに命そのもの。俳句を詠むことで、移ろっていく自然や他者と向き合える。献

血することで他者の命と向き合うことと通じるところがありますね」 今回の審査では、子どもたちの感性が、今も昔も何ら変わっていないことを実感できたとい

子どもに限らず、一人でも多くの人に俳句の素晴らしさを知ってもらいたいと精力的に活動を続けています。 携帯電話に俳句を無料で送る「俳句でメール」を始めたのもその一つ。2008年からは毎週日曜日、季節にちなんだ自作の句を配信するメールマガジン「週刊まどか歳時記」を配信しています。



### 俳人 黛まどかさん

このメールマガジナーからの「自

### 俳句の素晴らしさを伝えたい

分でも作ってみたい」との声に心惹かれ、携帯から投句できる「あなたからの一句」という新企画も最近スタートさせました。毎月一つ、お題が出され、携帯やウェブ上から渾身の一句が寄せられています。「投句する人は1カ月間、一つの季節についてじっくりと考えるわけです。そうすると、日常生活の中に必ず何か発見があるはずですよ」

「私自身、一人で投句していた時期がありました。今思えば、もったいなかったですね。自分の世界を広げるためにも、気軽に句会へ足を運んでみることをおすすめします」

黛まどかさんホームページ <http://madoka575.co.jp/>

### Voice & 懸賞クイズ

◆娘の夢は海外ボランティアー滝佳子さん(神戸市) 少額の募金に大きなお礼を言われ、娘たちもうれしうでした。小学生の娘の夢は海外ボランティア。赤十字の方のような立派な大人になってほしいと思いました。

◆ポナナス減に負けず「たすけあい」ー和歌山みかんさん(和歌山市) 職場で海外たすけあいに協力しています。ポナナスは下げますが、義援金の額を下げない人はいません。困った時は「お互いさま」です。

◆分かりますAED講習ー森山光子さん(伊勢市) AED講習会に参加しました！1回では覚えられないので、何回か受けたい。でも、赤十字職員の方からやさしい説明良かったです。 ◆たかが100円、されどー大黒薫さん(西条市) (12月号の特集を読み)100円あれば、こんないろいろなことができるんだって、びっくりです。たかが100円なんて思ってはダメですね。 ◆「Voice」と懸賞クイズの応募方法 クイズ問題①の解答にご意見や感想を添えて、はがき、FAXまたはメールでお送り下さい。今月号の応募締め切りは1月25日(月)必着です。 お名前、連絡先(住所、電話番号)を明記して下さい。 なお、「Voice」のご意見を紹介させていただく際、匿名を希望される方は、

その旨もご記入下さい。 ★今月号のプレゼント 赤十字思想誕生150周年記念の「赤十字オリジナルラベルワイン」と海外赤十字グッズを3名様差し上げます。 <応募先> 郵便〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社企画広報室 赤十字新聞係迄

1月号懸賞クイズ 問題① ミュージカル「ソルフェリーノの夜明け」を上演するのは宝塚歌劇団の何組? 答え □組(漢字一文字) 問題② インドネシアで取り組まれた保健衛生・救急法の普及事業の名称は? 答え □□□□(アルファベット4文字) ヒントは「赤十字新聞1月号」の記事の中です。 FAX 03-3437-7091 メール kohn@jrc.or.jp

12月号の懸賞クイズの答え 問題① 大道芸 問題② 1983 当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。 お詫び 前号6面静岡県の写真に誤りがありました。申し訳ありませんでした。

報告 REPORT

# 紛争に苦しむ人の命を救いたい 3人の日赤看護師・助産師が活動中 赤十字のアフガニスタン医療支援



米軍が3万人の増派を決定するなど治安の悪化が続くアフガニスタン。赤十字国際委員会(ICRC)はこの戦禍の地で、医療支援を1996年から続けていて、現在、日赤から3人の看護師・助産師が派遣されています。紛争の出口が見えないなかで、赤十字はその役割をどう果たしているのでしょうか。



病院スタッフの管理について相談する伊藤看護部長



広範囲のやけどで入院している子どものガーゼ交換に立ち会う苦米地看護師。この子はこの後回復し退院することができた



## 教育の低下が命を奪う

「多量の薬剤を使うことが最大の治療であり、また治療を受ける患者は、多量の薬剤を処方してくれる医師が良い医師だという考えをもっていきます。それが産科領域でも同様であり、薬は万能であるという考えで使用されています」

こう語るのは、福岡赤十字病院の助産師、井ノ口美穂さん。昨年8月末にアフガニスタンに派遣され、ICRCが医療支援を行うカンダハール県のミルワイズ病院で支援活動を行っています。

こうした背景には何があるのか？

昨年8月中旬に同病院に派遣された日赤医療センター看護係長の苦米地則子さんは、「開発途上国は、感染症だけではなく、生活習慣病も増加しているという二重苦の特徴があげられますが、ここアフガニスタンでは、戦傷者への治療も加わり、三重苦を抱え、また多くの患者がこの病院に集まってくるため、医療活動をさらに難しくしています」と現状を分析します。

加えて教育の問題です。「長期の紛争による教育の低下、とくに女性の教育水準の低さ

が、医療従事者の質の問題を引き起こしています」と苦米地さんは話します。

この事態は、医療を受ける患者側にとっても深刻。多くの女性が文字を読むことができず、自分や子どもの命を守るための知識を得たり、判断することができないからです。井ノ口さんは「女性がもう少し教育を受けられれば、救える命がたくさんあるはずです」と訴えます。

## アフガニスタン人による 問題解決を

ミルワイズ病院は、アフガニスタン保健省が管轄する地域の基幹病院です。ICRCでは、医師、看護師、助産師、栄養士、事務管理担当者など総勢19人のスタッフを各国赤十字社から派遣。医療・看護のレベルアップを目標に、地元の医療スタッフへの教育及び支援が実施されています。

昨年9月にICRCスタッフの看護部長として同病院に赴任した名古屋第二赤十字病院の国際医療救援部副部長、伊藤明子さんは「多くの患者さんたちは、この病院にわらをもすがの思いで来ています」と話します。

しかし、30年にわたり紛争が続いているアフガニスタンで、医療・看護



新生児とお母さんに声をかける井ノ口助産師

護水準を短期間で向上させるには課題が多く「長期的な支援が必要」(伊藤さん)といいますが。苦米地さんは「最低限、医師の指示にそって、必要な薬剤が正しく提供され、その記録がつけられるようになってほしい」と期待を述べ、井ノ口さんは「異常を早期に発見し、一人でも多く、安全な分娩ができるように支援する」ことを目標に掲げています。

現時点での医療・看護水準を上げるだけでなく、ICRCが前面に出ることで可能かもしれません。しかし、将来を考えたとき、アフガニスタンの人々が自ら中心となって、医療・看護、病院運営を行い、問題解決をしていく必要があります。

「そのための支援なのですが、結果が出るには時間がかかり、そこに日々の葛藤もあります」と伊藤さん。「困難な状況下で働く医療スタッフを理解し、彼らのモチベーションを維持しながら、より多くの人々に必要な看護が提供できるように支援を続けていきたい」と語ります。

## 3回目のアフガンで感動の再会

伊藤さんは、今回が3度目のアフガニスタン派遣。1回目は2001年のアメリカ同時多発テロの後、バーミヤンで3カ月活動。2002年からの2年間は、クンズース県やタハール県で活動しました。

今回の派遣では、以前の活動を支えてくれた現地スタッフと再会する機会がありました。「タリバン勢力が強くて、音楽が許されなかった彼らが、私たちのために笛を吹いたり、歌をうたってくれたことが鮮やかによみがえってきました」と感動を語ってくれました。

# 「知識の普及」が人々の生活を変える Bangladesh で公衆衛生普及活動 矢野佐知子看護師にインタビュー



2007年11月、大型サイクロン「シドゥル」に襲われ、被災者890万人、死者・行方不明者4000人という被害を受けた Bangladesh。日本赤十字社は、災害発生直後から救援活動や復興事業を積極的に支援してきました。09年4月中旬から11月末まで、同国南部ポリシャルを中心に公衆衛生の普及活動を行ってきた矢野佐知子看護師(大阪赤十字病院)に、活動の様子や思いを聞きました。

支援事業の目標は災害に強い地域づくりです。災害に弱い地域では保健衛生に関する知識も低く、災害発生時には被害拡大の原因に

なります。このため、一般的な保健知識を人々に普及することが大切なのです。

私は被害が大きかった4地域、250人のボランティアに公衆衛生のトレーニングを行いました。参加者には学んだ知識を地元で普及していくことが期待されています。すでに、住民の傷の手当や応急処置を行った参加者もいるなど、成果が発揮されています。

自分がやってきたことは小さいことかもしれませんが、その活動が地域ボランティアを通じて住民の皆さんに届くのを見ると、「自分にもできることがある」と思います。

イスラム教の世界では、HIV・エイズはタブー。参加者がその知識を学んでも村での

救急法のデモンストレーションをする Bangladesh 赤新月社のボランティア



普及は困難とされています。

ところが、ある村にモニタリングに行くと女性参加者に「あなたが今回学んだことは」と聞くと、みんなの前で「HIVについて学びました。疾患の特徴は…」と話したのです。それを聞いた Bangladesh のスタッフが「女性がHIVについて話をしたのは歴史的な出来事」と言いました。

こうしたことを経験すると、知識の普及がいかに大切かを実感できます。

今回、現地の青少年赤十字メンバーの若者たちにたくさん協力してもらいました。これも赤十字という組織ならではの魅力や、そこで活動することの魅力も一度見直す経験にもなりました。

被災した村を訪問する2年前のサイクロン

